

石黒直樹	【関節リウマチの治療 ベーシックな治療薬と最新薬のハーモニー】 使い方の実際 最新の薬物治療で手術は減ったのか?	Modern Physician	30(8)	1097-1101	2010
小嶋俊久	さらに先へ ーリウマチの苦痛を除くためにー	分子リウマチ治療	3	43	2010

(針谷 正祥)

[書 籍]

発表者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	出版社名	出版年
		書籍名	出版地	ページ
針谷正祥	膠原病に伴う血管炎 SLE, SSc	日本脈管学会	Medical Tribune	2010
		脈管専門医のための臨床脈管学	東京	255
針谷正祥	治療薬剤：生物学的製剤	竹内 勤	最新医学社	2010
		全身性エリテマトーデス 免疫 6 (新しい診断と治療の ABC67)	大阪	167-177
針谷正祥, 田中みち	副作用・合併症への対応と対策	日本リウマチ実地医学会	日本医学館	2010
		生物学的製剤によるリウマチ治療 マニュアル	東京	165-183
針谷正祥	巨細胞性動脈炎 (側頭動脈炎) /リウマチ性多発筋痛症	一般社団法人日本リウマチ学会生涯 教育委員会、財団法人日本リウマチ 財団教育研修委員会	診断と治療社	2010
		リウマチ病学テキスト初版第1刷	東京	258-262
針谷正祥	Buerger 病	一般社団法人日本リウマチ学会生涯 教育委員会、財団法人日本リウマチ 財団教育研修委員会	診断と治療社	2010
		リウマチ病学テキスト初版第1刷	東京	303-306
長坂憲治, 針谷正祥	ニューモシスチス肺炎	三森経世	文光堂	2010
		リウマチ・膠原病内科 クリニカル スタンダード (必携ベッドサイドで 必ず役立つリウマチ・膠原病学の エッセンス)	東京	267-272
針谷正祥	生物学的製剤の標的分子からみ た RA の病態	竹内 勤	メジカル レビュー社	2010
		ファーマナビゲーター リウマチへ 生物学的製剤編～	東京	34-42

[雑 誌]

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
野々村美紀, <u>針谷正祥</u>	生物学的製剤の副作用と使用上の注意点 (特集 関節リウマチ治療の最前線—現状 と展望)	Pharma Medica	28(3)	39-42	2010
<u>針谷正祥</u> , 駒野有希子	生物学的製剤大規模試験のエビデンス —我が国における試験を中心に—REAL 研究	日本臨床 増刊 号 関節リウマ チ (第2版)	68(5)	339-342	2010
長坂憲治, <u>針谷正祥</u>	ステロイドはリウマチに良い? 悪い? (特集 関節リウマチの治療～ベーシック な治療薬と最新薬のハーモニー～)	Modern Physician	30(8)	1042-1045	2010
田中みち, <u>針谷正祥</u>	生物学的製剤の安全使用に向けて。(関節 リウマチ・治療/実地診療における薬の使 いかたと留意点)	Medical Practice	27(12)	2121-2127	2010
酒井良子, <u>針谷正祥</u>	関節リウマチにおける MTX の安全性 —REAL 研究より (特集 関節リウマチ 治療におけるメトトレキサート MTX の 新たな位置づけ)	リウマチ科	44(5)	520-524	2010
<u>針谷正祥</u>	炎症性サイトカイン阻害と感染症 (抗体 療法 確立された炎症性疾患へのアプ ローチ)	治療学	44(2)	74-76	2010
<u>針谷正祥</u>	治療目標—目標達成に向けた治療 (Treat to Target)のエビデンスと実際 (特集 関 節リウマチ “治癒をめざす” 最新治療コ ンセンサス)	医学のあゆみ	234(1)	14-19	2010
<u>針谷正祥</u>	CTLA4-Ig による T 細胞共刺激阻害薬 —abatacept (関節リウマチの新しい治療)	メディカル・サ イエンス・ダイ ジェスト	36(9)	12(960)- 15(963)	2010

(津谷 喜一郎)

[雑 誌]

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
津谷喜一郎, 五十嵐 中, 白岩 健	分子標的薬の薬剤経済学	日本臨床	68(10)	1923-8	2010

(井田 弘明)

[雑 誌]

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Fujikawa K, Kawakami A, Hayashi T, Iwamoto N, Kawashiri SY, Aramaki T, Ichinose K, Tamai M, Arima K, Kamachi M, Yamasaki S, Nakamura H, <u>Ida H</u> , Origuchi T, Eguchi K	Cutaneous vasculitis induced by TNF inhibitors: a report of three cases.	Mod Rheumatol	20(1)	86-89	2010
Kawashiri SY, Kawakami A, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Tamai M, Arima K, Ichinose K, Kamachi M, Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ida H</u> , Eguchi K	Switching to the anti-interleukin-6 receptor antibody tocilizumab in rheumatoid arthritis patients refractory to antitumor necrosis factor biologics.	Mod Rheumatol	20(1)	40-45	2010
Iwamoto N, Kawakami A, Arima K, Nakamura H, Kawashiri S, Tamai M, Kita J, Okada A, Koga T, Kamachi M, Yamasaki S, Ichinose K, <u>Ida H</u> , Origuchi T, Eguchi K	Regulation of disease susceptibility and mononuclear cell infiltration into the labial salivary glands of Sjögren's syndrome by monocyte chemotactic protein-1.	Rheumatology (Oxford)	49(8)	1472-1478	2010
Nakamura H, Fujikawa K, Kawakami A, Tamai M, Yamasaki S, <u>Ida H</u> , Eguchi K	Long-term efficacy of intravenously administered immunoglobulin in a case of polymyositis with limited application of steroid therapy.	Mod Rheumatol	20(5)	496-499	2010

Kawashiri S, Kawakami A, Imazato T, Ueki Y, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Tamai M, Arima K, Kamachi M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ida H</u> , Eguchi K	Decrement of serum cartilage oligomeric matrix protein (COMP) in rheumatoid arthritis (RA) patients achieving remission after 6 months of etanercept treatment: comparison with CRP, IgM-RF, MMP-3 and anti-CCP Ab.	Joint Bone Spine	77(5)	418-420	2010
Hida A, Imaizumi M, Sera N, Akahoshi M, Soda M, Maeda R, Nakashima E, Nakamura H, <u>Ida H</u> , Kawakami A, Eguchi K	Association of human T lymphotropic virus type I with Sjogren syndrome.	Ann Rheum Dis.	69(11)	2056-2057	2010
Kawashiri SY, Kawakami A, Fujikawa K, Iwamoto N, Aramaki T, Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ida H</u> , Eguchi K	Type B insulin resistance complicated with systemic lupus erythematosus.	Intern Med.	49(5)	487-490	2010
Nakamura H, Ichikawa T, Nakamura T, Kawakami A, Iwamoto N, Matsuzaki T, Miyaaki H, Yamasaki S, <u>Ida H</u> , Eguchi S, Hayashi T, Nakao K, Kanematsu T, Eguchi K	Macrophage-dominant sialadenitis in HTLV-I-associated myelopathy post living-donor liver transplantation.	Transplantation Proceedings	42(7)	2797-2799	2010
Nakamura H, Kawakami A, Iwamoto N, Okada A, Yamasaki S, Tamai M, <u>Ida H</u> , Takagi Y, Hayashi T, Aoyagi K, Nakamura T, Eguchi K	A single centre retrospective analysis of AECG classification criteria for primary Sjögren's syndrome based on 112 minor salivary gland biopsies in a Japanese population.	Rheumatology	49(7)	1290-1293	2010
Nakamura H, Okada A, Kawakami A, Yamasaki S, <u>Ida H</u> , Motomura M, Imanishi D, Eguchi K	Isoniazid-triggered pure red cell aplasia in systemic lupus erythematosus complicated with myasthenia gravis.	Rheumatol Int	30(12)	1643-1645	2010

Nakamura H, Okada A, Kawakami A, Yamasaki S, <u>Ida H</u> , Masuda T, Fukuda T, Satoh K, Yoshimura T, Nakashima M, Hayashi T, Eguchi K	Rheumatoid vasculitis of crural muscles confirmed by muscle biopsy in the absence of inflammatory myopathy: histologic and MRI study.	Rheumatol Int	30(10)	1381-1383	2010
Nakamura H, Kawakami A, Hayashi T, Iwamoto N, Okada A, Tamai M, Yamasaki S, <u>Ida H</u> , Eguchi K	Anti-centromere antibody-seropositive Sjögren's syndrome differs from conventional subgroup in clinical and pathological study.	BMC musculoskeletal disorders	11(1)	140	2010
Ichinose K, Origuchi T, Kawashiri SY, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Kamachi M, Arima K, Tamai M, Nakamura H, <u>Ida H</u> , Kawakami A, Tsukada T, Ueki Y, Eguchi K	Efficacy and safety of mizoribine by one single dose administration for patients with rheumatoid arthritis.	Intern Med	49(20)	2211-2218	2010
Akazawa S, Ichinose K, Origuchi T, Kawashiri SY, Iwamoto N, Fujikawa K, Aramaki T, Kamachi M, Arima K, Tamai M, Nakamura H, <u>Ida H</u> , Kawakami A, Eguchi K	Successful treatment of chronic lupus myocarditis with prednisolone and mizoribine.	Mod Rheumatol	20(6)	606-610	2010

V. 合同研究発表会プログラム

厚生労働科学研究費補助金
免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業

平成 22 年度
リウマチ関連三班合同研究発表会
プログラム・抄録集

日時 平成 22 年 12 月 17 日 (金) 9 : 00 ~ 17 : 20 予定

場所 トラストシティカンファレンス・丸の内

(〒100-0006 東京都千代田区丸の内 1-8-1 丸の内トラストタワーN館 3F)

◆関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究班◆

研究代表者 竹内 勤

◆関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究班◆

研究代表者 田中良哉

◆関節リウマチ患者の生命予後からみた至適医療の確立に関する臨床研究班◆

研究代表者 山中 寿

I. 開会のご挨拶 (9:00~9:10)

厚生労働省健康局疾病対策課

課長補佐 真野 訓 様

II. 研究班概要発表

1. 竹内班 (9:10~9:20)

2. 田中班 (9:20~9:30)

3. 山中班 (9:30~9:40)

III. フリートーク (9:40~10:00)

IV. 研究班報告

◆関節リウマチに対する生物学的製剤の作用機序、投与方法、治療効果等に関する研究班◆

司会 竹内 勤 (10:00~12:35)

1. 生物学的製剤治療を阻害する要因の解析

— IORRA 研究において疾患活動性別に見た患者背景と治療 —

《研究分担者》山中 寿 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授

10:00~10:14

2. 関節リウマチにおけるバイオフィリー寛解導入療法体系化に関する研究

《研究分担者》田中良哉 産業医科大学医学部第一内科学講座 教授

10:14~10:28

3. トシリズマブ投与前の末梢血全血の遺伝子発現プロファイルに基づいた治療効果予測法の確立

— 治療効果判別遺伝子の関節リウマチの病態への関与の可能性 —

《研究分担者》西本憲弘 和歌山県立医科大学 免疫制御学講座 教授

10:28~10:42

4. 関節リウマチにおける軟骨破壊の病態に関する研究

— 血中 II 型コラーゲンの分解産物の軟骨破壊マーカーとしての意義 —

《研究分担者》石黒直樹 名古屋大学大学院 医学研究科整形外科 教授

10:42~10:56

5. 超音波による関節炎評価検査法の確立

《研究分担者》小池隆夫 北海道大学大学院医学研究科・第二内科 教授

10:56~11:10

6. TNF 阻害薬の継続投与と重篤感染症発現リスク –REAL データベースを用いた解析–
 《研究分担者》針谷正祥 東京医科歯科大学 医歯学総合研究科薬害監視学講座 教授
 11 : 10~11 : 24
7. SURPRISE 試験をベースにした生物学的製剤の薬剤経済評価の実施可能性
 《研究分担者》津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 特任教授
 11 : 24~11 : 38
8. 遺伝性自己炎症症候群解析結果を利用した関節リウマチの病態に関する基礎研究
 《研究分担者》井田弘明 久留米大学医学部呼吸器・神経・膠原病内科 准教授
 11 : 38~11 : 52
9. Th17 細胞のマーカー遺伝子 CCR6 の遺伝子多型と関節リウマチ
 《研究分担者》山本一彦 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギーリウマチ学 教授
 11 : 52~12 : 06
10. インフリキシマブの有効性に関する分子免疫薬理学的検討
 《研究代表者》竹内 勤 慶應義塾大学医学部リウマチ内科 教授
 12 : 06~12 : 20

◆関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究班◆
 司会 田中良哉 (12 : 20~12 : 35)

2. 蛋白のシトルリン化酵素である PADI4 の関節炎における役割
 《研究分担者》山本一彦 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギーリウマチ学 教授
 12 : 20~12 : 34

Lunch Time (12 : 35~13 : 35)

◆関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立、及び根治・修復療法の開発に関する研究班◆
 司会 田中良哉 (13 : 35~15 : 30)

1. 関節リウマチの関節破壊ゼロを目指す治療指針の確立
 《研究代表者》田中良哉 産業医科大学医学部第一内科学講座 教授
 13 : 35~13 : 49

2. 蛋白のシトルリン化酵素である PADI4 の関節炎における役割
 《研究分担者》山本一彦 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻アレルギーリウマチ学 教授

※ 分担研究者 山本一彦先生のご発表は、ご都合により午前となります。

3. 間葉系幹細胞を用いた関節破壊の再生・修復に関する応用研究
《研究分担者》小池隆夫 北海道大学大学院医学研究科内科学講座・第二内科 教授
13 : 49~14 : 03
4. TNF- α 制御分子、tristetraprolin(TTP)を介した関節リウマチ制御機構
《研究分担者》住田孝之 筑波大学大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻臨床免疫学 教授
14 : 03~14 : 17
5. NF 阻害薬インフリキシマブの骨びらん、関節裂隙狭小化に対する効果と機能障害に及ぼす影響
《研究分担者》竹内 勤 慶應義塾大学医学部リウマチ内科 教授
14 : 17~14 : 31
6. 間葉系幹細胞を用いた関節破壊の再生・修復に関する応用研究
《研究分担者》田中良哉 産業医科大学医学部第一内科学講座 教授
14 : 31~14 : 45
7. 抗 CCP 抗体陰性リウマトイド因子陰性関節リウマチの自己抗体検索に関する研究
《研究分担者》三森経世 京都大学大学院医学研究科臨床免疫学 教授
14 : 45~14 : 59
8. 新規関節炎治療薬開発のための CDK4/6 阻害薬スクリーニング
《研究分担者》宮坂信之 東京医科歯科大学大学院膠原病・リウマチ内科 教授
14 : 59~15 : 13
9. 関節リウマチ患者における骨関節破壊関連遺伝子に関する研究
《研究分担者》山中 寿 東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター 教授
15 : 13~15 : 27

◆関節リウマチ患者の生命予後からみた至適医療の確立に関する臨床研究班◆

司会 山中 寿 (15 : 30~17 : 25)

1. 生物学的製剤の関節リウマチ患者の生命予後に及ぼす影響に関する研究
《研究代表者》山中 寿 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授
《研究分担者》桃原茂樹 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授
《研究分担者》中島亜矢子 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 准教授
15 : 30~15 : 44

2. 関節リウマチ患者の生命予後からみた至適医療の確立に関する臨床研究
～メタボリック症候群の併発と治療効果との関連性から～
《研究分担者》田中良哉 産業医科大学医学部第一内科学講座 教授
15 : 44～15 : 58
3. 関節リウマチにおける栄養障害と疾患活動性に治療薬が及ぼす影響に関する研究
《研究分担者》福田 互 京都第一赤十字病院糖尿病・内分泌・リウマチ科 部長
15 : 58～16 : 12
4. 抗TNF α 療法による関節リウマチ患者の脂質変化に関する研究
《研究分担者》簗田清次 自治医科大学内科学講座アレルギー膠原病学部門 教授
16 : 12～16 : 26
5. 継続率から見た生物学的製剤の **Treat to Target** に向けての使用状況
—多施設生物学的製剤治療研究グループ(Tsurumai Biologics Communication; TBC)登録症例から—
《研究分担者》石黒直樹 名古屋大学大学院医学研究科整形外科 教授
16 : 26～16 : 40
6. トシリズマブによる機能的寛解導入とそれに関連する要因に関する研究
《研究分担者》竹内 勤 慶應義塾大学医学部リウマチ内科 教授
16 : 40～16 : 54
7. 関節リウマチにおける人工関節治療による質的生活機能改善に関する研究
《研究分担者》桃原茂樹 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 教授
16 : 54～17 : 08
8. IORRA コホートを用いた関節リウマチの直接費用推計に関する研究
《研究分担者》津谷喜一郎 東京大学大学院薬学系研究科・医薬政策学 特任教授
17 : 08～17 : 22

VI. 閉会 (17 : 25)

